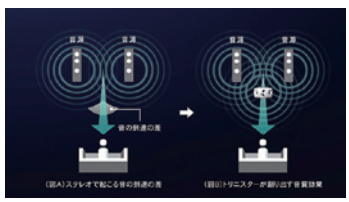
CLOSE UP
クローズアップ
アイテム
ITEMS

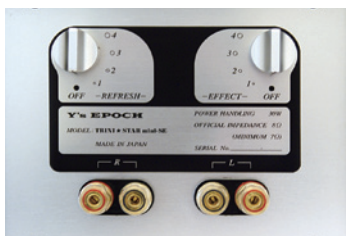
ワイズエポック TRINI★STAR mini

音楽の表情を豊かにする “ステレオ用” センタースピーカー

文：小原由夫



ステレオ再生の弱点と言われているL/Rチャンネルの “谷間” を補う効果が得られる。



TRINI★STAR miniの背面。左が部屋固有の音響的癖をリフレッシュする「リフレッシュ」、右が本機の効果を調節するための「エフェクト」という二つの調整ノブが備えられている。

TRINI★STAR mini ¥200,000

●形式：2chステレオ用特殊センタースピーカー（密閉型）●ユニット：2cmドームスピーカー×4●インピーダンス：8Ω●外形寸法：300W×150H×200Dmm●重量：1.3kg●仕上げ：ブラック／ホワイト／レッド／グリーン／イエロー●問い合わせ：ワイズエポック http://ys-epoch.com/

サラウンドシステムのセンタースピーカーとは違う

普通のスピーカーは、２本一組で売られている。しかし、このTRINI★STAR miniは、１本のみ。メインスピーカーの間に置いて使う、ちょっとユニークなスピーカーだ。メーカーでは “ステレオ用センタースピーカー” という言い方をしている。サラウンドシステムで主にセリフを再生するセンタースピーカーとは目的が違う。メインスピーカーの端子からケーブルを分岐して本機に結線する。すると本機からは内蔵ネットワークを経た高域信号のみが再生される。搭載されたユニットは、チタンドーム型の２cmトゥイーター。それぞれは異なる方向を向いている。

TRINI★STAR miniのコンセプトは、ステレオ再生によって合成される音の問題点を解決することにあるという。つまり、ステレオでは、左右のスピーカーから出た音波が重なることで立体感が現れるが、左右のスピーカーを結んだ中央で聴かなければ正しい立体感は得られず、部屋の影響も受けやすい。たとえばヴォーカリストの音像がピタッとセンターに定位するのは、左右のスピーカーから均等に音が出ている場合で、それはあくまで合成されたイメージ、すなわち虚像である。部屋の響きにクセがあれば、そのヴォーカル音像が大きくなったり小さくなったりしてしまう。また、たとえ同じスピーカーを使っても、部屋が変わればヴォーカル音像のイメージは同じにならない。TRINI★STAR miniの目的は、

仕上げはブラック、ホワイト、レッド、グリーン、イエローの5つのカラーバリエーションを用意。カラーにより微妙に音色が異なるという。

そのセンターイメージを明確にするとともに、部屋の影響を最小限に止めようとするものだ。

前記のように結線した後、背面のツマミを設定する。「リフレッシュ」と「エフェクト」の２つがあり、オフを含めて５ポジションが用意されている。それぞれは同じレベルに設定するのが原則で、取扱説明書には、組み合わせるメインスピーカーの出力音圧特性の値に応じた推奨ポジションが記載されている。出力音圧特性が不明でも、一般にはレベル２または３に設定すれば大体いいようだ。ちなみに本体中央の２つのトゥイーターがリフレッシュ、両サイドがエフェクトを担っている。

定位感がシャープになり ホールトーンも感じられる

美しい曲面で構成されたエンクロージャーは木製で、リアパネルには３mmのアルミ板を採用している。ボディカラーは５色揃っているが、白がもっともニュートラルで、黒がオーディオ的な高解像タイプと、カラーリングで微妙に音色が異なるようだ。メーカーの説明によれば、赤はロック、緑がクラシック、黄色がアコースティック系とか。

設置する場所は、メインスピーカーよりも手前で、中心線からリスニングポイントまでの軸上、半分以内がセオリー。リスナーの向きに合わせて仰角をつけるのがベターなようだが、今回はさまざまな高さを実験してみた。

まず床に直置き。ヴォーカルでは明瞭なセンターイメージが得られた。くさび型のスタンドを底面に挿し入れて前方を少し上向きにしてみたところ、音像が若干手前に出て、定位感がシャープになった。次に高さ20cmのスピーカーベースに乗せてみた。この状態でメインスピーカーとして使用したB&W 802のスコーカーの位置と高さが揃った印象になった。音像の張り出し具合もナチュラルだ。最後に高さ50cmのスピーカースタンドに乗せてみたが、これはあきらかにアンバランス。何となくヴォーカリストの首が異様に長くなったような感じがした。

続いて高さ20cmのスピーカーベースに固定した状態で、背面のツマミを切り替えてみた。レベル３では響きが柔らかだが、効果としてはやや強めに出る。レベル２では、くっきりとしたタイトな感じ。本誌試聴室にてさまざまな音楽を聴くという前提に立つと、レベル２のほうが汎用的に使えそうと感じた。とくにロックやJ-POP、ジャズなどではレベル２が好ましい。クラシックのホールトーンなどをたっぷり感じたいというケースでは、レベル３でもいいだろう。

諏訪内晶子／ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第7番、第9番「クロイツェル」
（UC・デッカ●UCCP-9636）SHM-CD

TRINI★STAR miniの効能は、明瞭なセンターイメージの造形と、より立体的な音場感の広がりである。レベル２からオフのポジションにすると、途端に音が痩せ、音像の実体感が薄れる。一言でいえば、淋しい音に感じられるほどなのだ。

ミニからND-R1まで 勢ぞろいしたラインナップ

TRINI★STAR miniと外見は同じだが、内蔵クロスオーバーネットワークのパーツのグレードと、背面のスピーカーターミナルがより上等なものになったTRINI★STAR mini SEがある。今回あわせて聴いてみたが、仕様のグレードアップによる効果はTRINI★STAR mini SEのほうが大きい。つまり、効果がよりはっきりと出る印象なのだ。諏訪内晶子のベートーヴェンのソナタ第９番「クロイツェル」を聴いてみたところ、レベル２でも豊かな響きが得られた。レベル３では残響感が非常にリッチだ。

トゥイーターがさらに大きくなり、エンクロージャーも大容積になったTRINI★STAR ND-R1は、ハイエンドスピーカーとの組み合わせを意図したもの。ヴァイオリンの質感がより迫真的になり、音場の深み、奥行き感が加味され、部屋が広くなったように感じられた。

TRINI★STAR mini SE
オープン価格（27万円前後）
●形式：2chステレオ用特殊センタースピーカー（密閉型）●ユニット：2cmドームスピーカー×4●インピーダンス：8Ω●外形寸法：300W×150H×200Dmm●重量：1.3kg●仕上げ：ブラック／ホワイト／レッド／グリーン／イエロー

ND-R1（木目）

ND-R1（ブラック）

TRINI★STAR ND-R1 ¥840,000
●形式：2chステレオ用特殊センタースピーカー（密閉型）●インピーダンス：8Ω●外形寸法／重量：440W×245H×340Dmm／9.1kg（本体）、275W×127H×185Dmm／3.5kg（外付けネットワーク）●仕上げ：木目／ブラック●専用スタンド：¥42,000